

■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白井 博文



■ あけましておめでとうございます

今年も、市政発展のため全力でがんばります。みなさんのご支援をよろしくお願ひします。

■ 市ホームページを更新しました

平成 23 年 4 月 1 日から本市のホームページを一新しました。今回のリニューアルは、市民のみなさんにきっと喜んでいただけると、目的の情報にいち早く到達するための工夫を重ねたものでしたが、かえって使い勝手が悪くなったとの不評の声も寄せられています。そこで担当者に聞いてみました。例えば「子ども手当」を探します。まず、トップページにある「初めての方へ」をクリックしてください。左端に「分類で探す方法」「市役所の組織で探す方法」などの見出しがでてきます。ここでは、それぞれの検索方法がご覧いただけます。トップページに戻り、中段左側にある「分類で探す」をクリックすると日常必要な情報に当たる「ライフインデックス」が、その中から「子育て」、最後に「子ども手当」をクリックすると必要な情報に到達します。また、「組織で探す」なら、もっと簡潔に「こども福祉課」、そして「子ども手当」をクリックすると「分類で探す」から到達したものと同一情報が出てきます。すぐに慣れていただくと信じています、うんと使ってください、とのことでした。

■ 本市の借金残高について

みなさんのご協力で順調に減らしている本市

の借金（市債残高。金融機関等からの借入）ですが、12月議会の一般質問を聞いていて、議員の中にも誤解があるようでしたので、改めてご説明します。

一般会計分ですが、平成 20 年度から平成 22 年度までの地方債残高の推移は、百万円単位で、平成 20 年度から順次、288 億 4,400 万円、288 億 3,100 万円、286 億 3,900 万円となっていて、一見、本市の借金は減っていないように見えます。しかし、内訳を見ると、臨時財政対策債が平成 20 年度には 54 億 300 万円だったものが、翌年度以降は 60 億 1,100 万円、72 億 7,800 万円と増加しています。また、合併特例債も 14 億 2,400 万円、20 億 7,300 万円、26 億 3,200 万円と増加しています。「臨時財政対策債」とは、「国の地方交付税の財源が不足した場合、その穴埋めとして自治体に借金させ、その償還は後年度の地方交付税で 100 パーセント措置されるもので、実質的には地方交付税の代替財源」です。また、合併特例債は、償還の 7 割を国が負担するものです。これらを差し引くと、一般会計における実質的な市債残高は、平成 20 年度は 220 億 1,700 万円。平成 21 年度は 207 億 4,700 万円。平成 22 年度は 187 億 2,900 万円となり、平成 20 年度から平成 22 年度までの 2 年間に約 33 億円の借金が減ったこととなります。

対話の日

1月26日(木) 19:00 ~
本山公民館